



雨水の頃 雨が降り 三寒四温を繰り返しながら 春へと向かいます。

今まで降った雪や氷が解けて水となり、雪が雨に変わって降るという意味から、この頃を「雨水（うすい）」と呼びます。草木の萌芽のきざしが見えてきます。農耕の準備は雨水の頃が目安です。早岐瀬戸の早場米の水田は田起こしの後、水が張られ盛んに田中の虫をついばむカモやサギの姿が見られました。

明日から、いよいよ3月になります。6年生の登校も後2週間となりました。今週から卒業式の準備も本格化し、学校全体が卒業式モードに入っていきます。卒業式については、文科省や教育委員会の通知を確認し、少しでも6年生にとって思い出に残るものとなるよう、できるだけ多くの人でお祝いできるよう最後まで深慮していきます。急遽の変更も含めてご理解をお願いいたします。



地球深部探査船「ちきゅう」佐世保来港

【委員会が新体制となりました】2月15日

15日の委員会は、新旧委員会の引継ぎを行いました。まず、5・6年生で今年度の委員会活動の振り返りをしました。その様子を4年生も見学しました。その後、5年生が新しい委員会（5年度）へ移動し、6年生の助言をもらいながら、4・5年生の新体制で、自己紹介・活動内容の確認・当番の役割分担などの話し合いを行いました。

6年生の力を借りながらの新体制への引継ぎ、6年生の卒業に向けた意識も高めていきます。



【最後の授業参観②】2月17日

14日の2・4・6年生に続き、17日には1・3・5年生の最後の授業参観がありました。どの学年もこの一年で学んだこと・出来るようになったことを様々な方法で発表しました。1年生は実演が中心です。鉄棒・マット・合奏・音読劇等、それぞれが得意なことを分かれて発表しました。3年生は、佐世保のじまんを伝えようということで、模造紙やパンフレットにしたものをスクリーンで写しながら発表しました。友達の発表で工夫したこともプリントにまとめていました。

5年生は、グループに分かれて、地球温暖化や大気汚染、生物多様性や森林保全と緑化等、地球規模の課題をプレゼン資料にまとめ、分かりやすく発表していました。プレゼン資料をパソコンで作成していたのですが、その技量は素晴らしいものがありました。年度末のお忙しい中、たくさんのご参観ありがとうございました。



【思い出の調理実習(6年生)】2月21日

21日は、6年生が最後の調理実習をしました。

まずは、みんなで材料の買い出しです。徒歩で佐世保駅のエレナに買い物に行きました。買い物に行くときは天気も良く、どの顔も笑顔でいっぱいでした。そして調理です。班でメニューも違います。チャーハン・ポトス・オムライス・ポテトサラダなど。分担しながら得意なことを生かして思い思いに調理をしていました。中にはタブレットを使ってレシピを見ながら、正確に料理をしている班もありました。みんなで料理をして、みんなで食べる。少々失敗しても、これ以上おいしいものはありません。これも小学校の思い出の一コマになればいいですね。



【最後のクラブ活動！】2月21日

21日は、令和4年度の、そして6年生にとって最後のクラブ活動でした。それぞれ1年間の反省をカードに書き込んだ後、最後の活動を楽しみました。

サッカーやダンス、パソコンを使っての動画撮影、スライムやハーバーリウム作り、6年生と最後のカードゲーム（UNO）など、楽しい活動が展開されていました。6年生が一番楽しそうでした。



【地球深部探査船「ちきゅう」来港】 2月21日

21日、佐世保湾に地球深部探査船「ちきゅう」が入り、ゆっくり曳航されながら通過していきました。調べると、人類史上初めてマントルや巨大地震発生域への大深度掘削を目標としていて、世界初のライザー掘削（調べてみよう！）が可能な科学探査船だそうです。よくよく見ると船体に「JAMSTEC（国立研究開発法人：海洋研究開発機構）」の文字も見えました。2020年1月に初めて佐世保港に定期検査のため入港しました。それまでは、長崎港で検査していたそうですが、掘削のためのやぐらが70メートルの高さがあり、女神大橋（65メートル）ができたため通過できなくなり、佐世保港で検査するようになったそうです。教室の窓からもその雄大な船体が見えました。（表に写真があります。）

【最後の読み聞かせ（6年生）】 2月24日

24日は、読み聞かせボランティアさん（For Kids さん）による6年生への小学校最後の「読み聞かせの日」でした。1年生の時、最初に読み聞かせをした本「へんしんレストラン」、2年生で初めて聞いた英語の本「Silly Willy」を再び読み聞かせをしていただきました。懐かしかったと思います。

その時の（1年生・2年生）感想も話してくださいました。挨拶もしっかりできて、英語にも中国語にも興味津々の反応がいっぱいでした。この6年間で読んでいただいた本の数、実に139冊。延べ100名のボランティアメンバーに関わっていただきました。最後に、はなむけの本「あなたのすてきなところはね」を読み聞かせがありました。

子供たちは6年生になっても読み聞かせが大好きで、本当に幸せだと思います。これらの積み重ねが子供たちの豊かな情操を確実に育てていきます。



【ようこそ新1年生！】 2月22日・24日

22日には、校区内にある潮見幼稚園、24日には佐世保駅前保育園の年長さんが1年生の教室を訪問しました。4月からは1年生なので、小学校はどんなところか、どんな活動をしているのか見に来たのです。迎える1年生も張りきっていました。まず、算数の勉強を10分間見てもらいました。その後、給食や係活動、朝の会など、普段やっていることを紹介しました。最後は体験活動です。けん玉や達磨落とし、しりとりやひらがな、お絵描き、読み聞かせなどたくさんの体験を用意して、楽しんでもらえるようお世話していました。

1年生の成長を感じた時間でもありました。



【ふれあいタイム（5年生主導）】 2月24日

縦割り班で、様々な活動を楽しむ「ふれあいタイム」。今回から5年生が6年生に代わり、その内容を考え、縦割り遊びや交流を引っ張ります。赤白合わせて10班に分かれた5年生。活動の内容を考え、説明をして交流を開始します。6年生が今までやってきたことを引き継いで頑張りました。そこには優しく見守る6年生の姿もありました。



校長の独り言⑪ ウクライナの戦争が1年になりました。戦争の一番の被害者は子供たちです。

俳優でタレントのサヘル・ローズさんをご存じですか。1985年イランで生まれ、イラン・イラク戦争で孤児となり、7歳までをイランの孤児院で過ごします。いわゆる戦争孤児となったローズさんの幼少期は大変なものでした。彼女の著書からその一端を拾うと「私（サヘル・ローズさん）は、イラン・イラク戦争の最中、4歳で孤児になりました。戦争や内戦は、たった一日で、たった一夜でこれまでの生活を変えてしまいます。多くの人がふるさとを失い、たとえ生き延びたとしても、大切な人を奪われ、孤児になります。私は孤児院で3年ほど暮らしました。衣食住は与えられていたのですが、不思議なことに、そこで暮らした3年の間に心が動くということがありませんでした。当時は面倒を見てくださる職員さんの人数が圧倒的に足りていない状況でしたので、自分の話を聞いてくれる人がいない、自分が誰かの瞳に映ることがない、自分が誰かに愛されていることを実感することがないという状況でした。人は、衣食住が満たされていても、愛情がないと心の貧困になってしまうのです。そんな中、空爆で破壊された街へ行き、瓦礫の中から生存者を救出していた一人の女性がいました。その女性の名前はフローラ。その後私の養母になって愛を与えてくれました…。」この養母とともにローズさんは8歳で来日します。この後のローズさんの人生は、また別の機会に。24日でウクライナの戦争が1年となりました。戦争の一番の被害者は子供たちです。犠牲となった子供たち。たとえ生き延びても、ローズさんのように戦争孤児となってしまった子供たち。一刻も早い戦争終結を願わずにはいられません。